

# 隷徒 3

あんぷらぐど  
荒縄工房

# 母娘の章

荒縄  
SM  
文庫

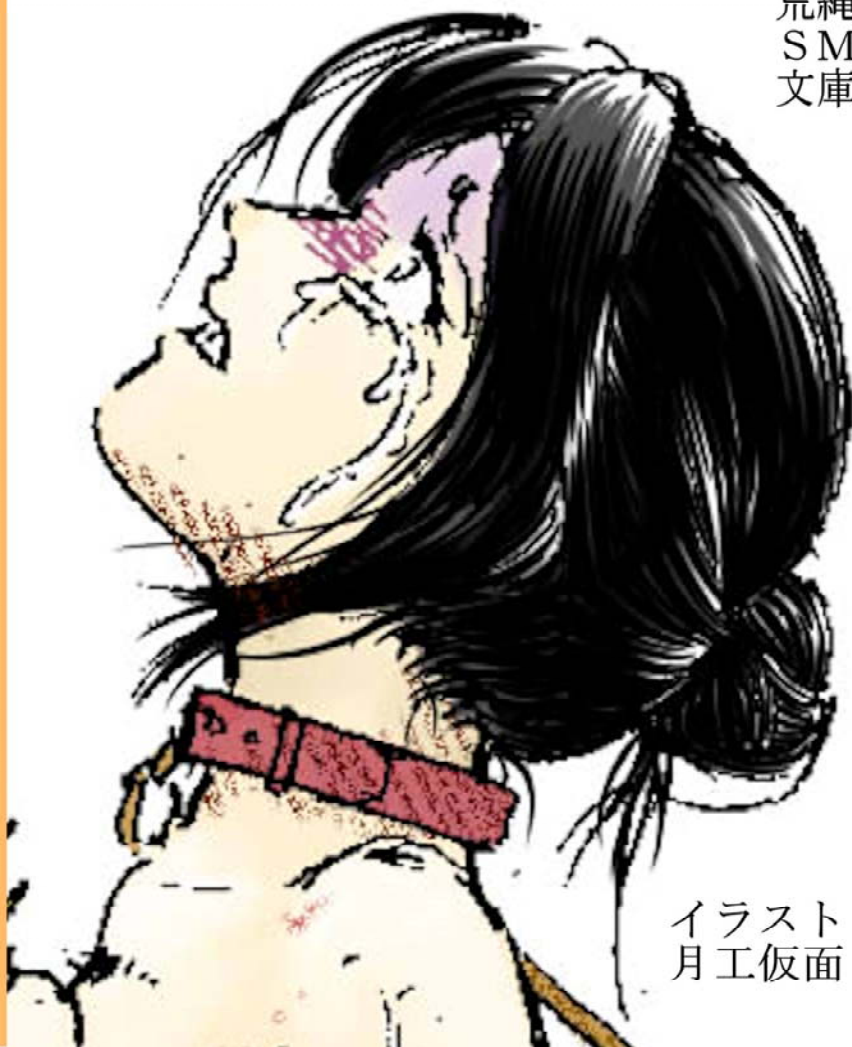


イラスト  
月工仮面

荒縄SM文庫

# 隷徒 3

母娘の章





あんぷらぐど著

荒縄工房・発行



本作品はすべてフィクションであり、実在する人物・地名・団体とは一切関係ありません。また、特定の個人、団体、宗教、人種、性別などを誹謗中傷する意図はありません。

あんぷらぐど

S M雑誌に「仲ゆうじ」名でS M小説を執筆して作家活動をスタート。その後、作家活動は休止し、編集の仕事に携わる。ネットでは「ふにやふにや」「あんぷらぐど」名でS M小説を執筆。独自の自虐的S M、一人称による告白形式の作品、伝奇S M小説などを発表し続けている。東京在住。

# 目次

扉絵 3

これまでのあらすじ 9

主な登場人物 13

母の正体 15

懲罰 22

家庭訪問 40

人間燭台 68

子宮責め 89

きつい 123

引き受ける 142

新任教師	1	9	1
厳罰	2	1	6
実験	2	4	2
尿道拡張	2	5	2
残酷遊戯	2	6	8
消耗品	2	7	7
帰宅	2	8	7
学園の日	3	0	0
奥付イラスト	3	1	4
シリーズ紹介	3	1	5
隸徒2 姉妹の章	3	1	6

奥付 318

表紙・奥付のイラスト提供

月工仮面「極彩色の雨」

<http://gekkoumask.blog14.fc2.com/>



これまでのあらすじ

「隸徒1 聖香の章」

引っ越してきた聖香は母の仕事を世話してくれている奥沢社長の紹介で、「就職率一〇〇%」で知られる名門・荒縄学園に転校させられた。

もともとマゾっけのある聖香は、転校初日というのにお尻に恥ずかしい落書きをし、ノーパンで登校する。

学園の秩序を守るエリートたちの「チームA」にマゾクされていた聖香は、さっそくチェックされる。千晶は一度は見逃してあげようとするが、翌日もまた恥ずかしいかつこうで来た聖香を見限り、告発する。

学長は「すぐ退学するか、隸徒か」と迫った。この学園ではひたすら教員や学生に奉仕して卒業する隸徒という制度があつたのだ。

母に迷惑をかけたくないと聖香は隸徒になることを選んだ。

しかし、それは聖香が思った以上に過酷な日々となつていった。

## 「隷徒2 姉妹の章」

隷徒となった聖香。その様子がおかしいと姉の翔子が学園を見に行くと、持ち物検査を受けている妹の姿に思わず救出しようとしてしまう。チームAに暴行を働いたと翔子は捕らえられる。そして奥沢社長によって風俗店で働いていたことが明かされる。専門学校生ではなかったのだ。翔子は職員扱いの隷徒にされてしまう。聖香も翔子も隷徒としての一日を送るが、帰宅時に公園のトイレで襲われてしまう。公園の住人たちに凌辱され、翌朝、遅刻した二人を捜しにきたチーム

Aたちに発見される。遅刻したことによって聖香の卒業は一年伸びてしまった。

そして二人は二穴の拡張調教を受けるのだった。

## 主な登場人物

花沼聖香 変態妄想癖の学生。

翔子 聖香の姉。専門学校学生。

佐恵子 聖香、翔子の母。

シングルマザー

奥沢社長 奥沢工業の社長。荒縄学園のOB。学園の後援者。町の有力者。

秋沢栄子 新任教師

克也、圭俊、一毅、健介、千晶

チームAのメンバー。チームAは代々、先輩から推薦されて選抜される成績最優秀な学生たち。学園の秩

序・環境維持のための活動をする。隷徒の管理も担当  
している。

## 母の正体

「おねえちゃん！ きついい！」

「ああ、聖香、もつと優しくして！」

みんなが私たちに浴びせたおしっこで、地面は水たまりみたいになっています。そこに仰向けになっている私。目の前には姉の下半身があつて、そこに私の手が深く入っています。

そして男子たちは、そんな翔子のアヌスを犯して遊んでいます。

「聖香、おれのチンポを握ってみろよ」

たしかに指先に固いものを感じますが、握るのはとてもムリなのです。でも、やろうとします。せざるを得ません。

だって、私のまんこには、姉の手が入っていて、お尻の穴には男子の手が入っているのです。そっちでは、「翔子さん、握手しませんか」と、男子たちが笑っているのです。

いつ終わるとも知れない恥ずかしい行為。隸徒は、校庭の片隅であつても、どんなことでも命令に従わなければならぬのです。

「聖香！ 翔子！」



大きな声にびっくりします。聞き覚えのある声だからです。

学生たちの人垣が割れて、母が立っていました。よそ行きのスーツです。

「なにやってるの！」

母は怒鳴り、私たちのところに来ます。

「おかあさん」と私も姉も泣き出してしまいましたが、手はあそこに入ったままなのです。

「なんだよ、邪魔しやがって」

男子は乱暴に引き抜いていきました。

「おやおや、見つかったね」

奥沢社長も一緒です。

「この二人は隸徒なんですよ。ご存知でしょう、隸徒のことは」

母は真っ青で、怖い顔をしています。

「佐恵子さん。あなたの娘たちは、二人とも学園の隸徒になったのですよ。残念ながら遅刻したらしくて、聖香は卒業まで最短四年ですね。翔子は聖香の卒業まで職員隸徒として特別にいてもらうことになっています。扱いは隸徒と同じです」

「そんな……」

気絶しちやうにちがいありません。

「どうか、この子たちを許してあげてください。転校させますから」

母は必死に社長にお願いしています。学長よりも社長のほうが強いらしいことは、私だって薄々感じていました。母はよく知っているようなのです。

「そういう問題じゃないでしょう、佐恵子さん」  
奥沢社長が、母の手首をひねりあげました。

「あつ」

「佐恵子。おまえ、子どもたちになにか言えた立場だったっけ？」

「うううう」

母は校庭に膝をついてしまいます。

「佐恵子。おまえこそ、子どもたちに黙っていたことがあるだろう。こうなったからには、白状するんだね。娘たちのことを咎めることなどできないはずだぞ」

「いやです。やめてください」

「なにを言うんだよ」

奥沢社長は母のスカートをめくりあげました。パンスト。社長がそれを片手でビリビリと破ります。

その下には肌。

「どうだ、このケツ」

社長に撫で回されているお尻には、たくさんの傷、

痣があるのです。

どれも私にも身に覚えのあるものばかり。あれは鞭で叩かれた跡に違いありません。

「驚いたか、聖香、翔子。おまえたちのおかあさんは、マゾなんだ。どうやら、おまえたちの血筋みたいだな」

# 奥付

お読みいただき

ありがとうございます。

二〇一三年十一月刊行 二〇一八年八月二版

著作権 あんぷらぐど (荒縄工房)

荒縄工房の情報は下記サイトへ

● ブログ「荒縄工房」

● ホームページ

● 荒縄工房 S M 研究室

● 今日も上機嫌ってわけないだろ

コメント、メッセージ歓迎。ご意見、ご感想、ご提案など随時、ブログで受付中。